



iwork-pro.jp

クリックして  
Webサイトへ  
アクセス

# アイ・ワーク News

iwork News Vol.25



## 個人的 推し ガジェット イヤホン編



お久しぶりです。実はガジェット好きの横瀬です。自宅での作業を言い訳にPC周りの小物を買集めているのですが、今回はその中からイヤホンをご紹介します。

リモートワークを開始して最初に用意したのがワイヤレスイヤホンでした。iMacのスピーカーでも問題なくオンラインミーティングできるのですが、私が住んでいるのは中途半端な田舎です。町内放送がまだ現役です。朝礼の時間と地震やJアラートの訓練放送がよく被ります。5時の音楽も流れます。家のすぐ横にはJRと私鉄が走っていて、近所にはよく撮り鉄さんがいます。

そんな環境ですから、イヤホンは必須アイテム。まずはお手頃のインナーイヤータイプを購入しました。安い割にマイクの性能もそこそこで通話中はよかったのですが、子供が帰ってきたり宅配が届いたり聞き逃せない音があるので、仕事でずっとつけていられずわずらわしく思っていました。そこで見つけたのが、イヤークラフ型(オープンイヤータイプ)の**ambie AM-TW01**(現在は廃盤)。周囲の音がそのまま聞こえるし、ワイヤレスなので、昼休憩など少しPCから離れても通知音が聞こえるのがとても便利なのです!

気に入って一年半ほど使用していたのですが、最大音量が小さくて聞こえにくいことがあったのと、バッテリーがヘタって業務時間をカバーできなくなってきたので買い換えることにしました。

外音取込み機能のあるちょっと高性能のインナーイヤータイプを使いはじめたのですが、そこで自分が長時間耳が塞がれているのに耐えられないことに気づきました(笑)それまでもイヤホンで映画とか観てたんですけどね。仕事中は無理のようでした。

で、今使っているのは『聴こえるメガネ』**HUAWEI Eyewear2**です。メガネチェーンのOWNDAYSとコラボしているので、もちろん度入りです。オンラインの打合わせなどでの私はゴツい黒縁メガネをかけていますが、それが実はイヤホンになっています。メガネとイヤホンが1つでいいのはとても快適です。最大音量も大きめなので聞きづらいこともありません。

難点はツルの部分がスピーカーなので、サイズが調整できないことです。ピタリングというメガネを固定するゴムをつけたら解決しました!(メガネさんにはこのピタリングもおすすめです!)

メガネを掛け替えることで、気持ちも切り替えられるのでそこもいいところかもしれませんね。

ただ、そろそろ飽き性が顔を出してきたのと年齢的な度数の変化(笑)によりまた次のイヤホン検討中です!イヤークラフ型がやっぱり使いやすかったな~

“デジタルかあさん”  
ディレクター 横瀬  
M.YOKOSE



# 大学ミュージアム探訪

in KYOTO



京都には、大学の運営するミュージアムが多く存在します。「京都・大学ミュージアム連携」(※1)のWebサイトによると、京都市内14大学に15の大学ミュージアム施設を持っていることが紹介されています。

そのうち、私がよく訪れるのが京都工芸繊維大の「美術工芸資料館」、大谷大学の「大谷大学博物館」、京都大学の「京都大学総合博物館」、龍谷大学の「龍谷大学龍谷ミュージアム」の4施設です。

## 美術工芸資料館

(京都工芸繊維大学)

美術工芸資料館は、展示の多くが収蔵品を中心にデザインに関わる企画が多く、クリエイティブの熱量を高めてくれるミュージアムの一つとなっています。現在は、「畠山崇の写真展2-京都を切り撮る」が開催されています。直近の「北沢恒彦-ポスト経済成長期の商店街と市民」は、京都新聞にも大きく紹介されました。

サイトはこちら



## 龍谷大学ミュージアム

龍谷大学龍谷ミュージアムは、仏教の思想・歴史・文化についての展覧会を開催方針としています。

展示スペースも広く、仏教所蔵品などの実物展示は、観覧者も遠方から来場するなど注目のミュージアム、昨年の秋季企画展「おれたちも、いるぜ眷属」は、仏教美術の名脇役にスポットがあてられた大変ユニークな展示でした。

現在は、春季企画展「大谷探検隊 吉川一郎」が開催されています。40代の頃、この地を訪れたことがあるだけに、見に行く予定にしています。

サイトはこちら



## 大谷大学博物館

大谷大学博物館は、事務所から徒歩圏内。時間のあるお昼時にも、お邪魔します。

真宗・仏教文化財への認識を普及目的に、京都との深い関わりのある所蔵品を公開展示して開催しています。

「京都を学ぶ 絵と図で見る京都」は、都合がつかず観ることが叶わなかったです。

サイトはこちら



## 京都大学総合博物館

京都大学総合博物館は、書籍の受け取りや学食利用の機会があるときは、必ず立ち寄るミュージアムです。

5月11日(月)までの企画展「吉田遺産探訪」は、遺跡、古図、剣鋒の文化財を軸に、大学の所在する吉田地域の歴史とのかかわりを取り上げています。筆者の年齢では、「無料」で入館できます。

サイトはこちら



さて、「人は何を求めて美術館に足を運ぶのか?・・・」

- 一、見たかったものを見に行く。
- 二、見たこともないものを見に行く。
- 三、見なければならぬものを見に行く。(※2)

三つの異なる理由を同書によって知ることがあった。私は、二。見たこともないものを見に行く理由が一番大きい。まだまだ好奇心の世界に埋まっている所為かもしれないです。



\*1 京都・大学ミュージアム連携サイト <https://univ-museum-kyoto.com/>  
\*2 「パラレルな知性(鷺田清一)」晶文社

“しんがり”を努めるリーダーしっぽ”  
代表取締役 福原 T.FUKUHARA